

隠れた助詞を考える

第1396回放送用語委員会が、平成27年10月30日に札幌放送局で開かれた。外部委員は作家の清水義範氏と名古屋大学大学院教授の町田健氏。札幌、函館、旭川、帯広、釧路5局のニュース・リポートを検討した。

◎文に表れていない助詞を置いてみる

昭和59年に、小樽市で撮影された遊園地の写真。ジェットコースターや観覧車で楽しむ人々が写されています。

「遊園地の写真」が、体言止めでないとしたら、「遊園地の写真には」となる。それならば、「写っています」のほうが自然である。

応援したい自治体に寄付をすると、住民税の一部が控除される「ふるさと納税」。今月、手続きが簡素化し、利用者の増加が見込まれています。

「ふるさと納税」が、次の文の実質的な主題になっているので、「ふるさと納税は」の助詞が隠れているという考え方もできる。そう考えると、「手続きが簡素化され」としたほうがよい。「簡素化する」は、多くの事例を見ると自動詞としての使用例は少なく、他動詞として使われることが多い。助詞を仮に置いてみると、よりふさわしい表現が見えてくることもある。

◎連体修飾節の丁寧体は避ける

おとといから行われております「ノーザン・レスキュー」についてのニュースです。今後、道内で起きうる災害で、被害を減らすためには、どうしたらいいのか。自衛隊と自治体などの連携を考えるセミナーが、釧路市で開かれました。

ニュースのリードの部分である。連体修飾節は、普通体をとるのが一般的であり、丁寧体をとると違和感を持つ人もいます。「行われております」は、「行われている」としたほうがよい。

「起きうる」は文章語であり、放送表現としてはや

や硬い。「起きるかもしれない災害で」、あるいは、「災害が起きた際」とも言い換えられる。

◎ことば足らなくなっていないか

被災地、宮城県南三陸町の佐藤仁町長は、「夜や冬場など、より厳しい条件で訓練を行うことが、『想定外』をなくすうえで重要だ」と述べました。

「想定外」は、東日本大震災の後、頻繁に使われ、「想定外のことも起こる可能性がある」という考え方は、浸透してきているものの、少しいねいに言ったほうが伝わる。「想定外の被害」あるいは「想定外の事態」とひとこと補えば分かりやすくなる。

◎動詞の選択は適切か ◎「～化」

函館などの大学は、新幹線の開業で帰省がしやすくなる効果をアピールして、東北の高校生を誘致する動きを活発化させています。一方で、逆に東北の大学が、道内の高校生を取り込もうとする動きも活発化しています。

「取り込む」は、「籠絡する」「まるめこむ」という意味でも使われる。「呼び込もうとする」「進学を働きかける」などと言いかえれば印象が変わる。また、「誘致」は、工場誘致、企業誘致などによく使われる。最近は「学生誘致」も目にするようになったが、教育の問題を経済活動と同じように表現してよいのだろうか、という意見が出た。獲得競争を続ける両方の当事者とは、一定の距離を置いた放送表現を心がけることも大切である。

「～化」は便利なことばだが、多用しないほうがよい。「活発化」の上記2番目の例は、「活発になっています」と置き換えられる。機械化、民主化、自由化、高齢化、少子化などは複合語として定着している。しかし文庫本化、全額自己負担化、見える化などは、後から「化」をくっつけたという印象があり、状況によっては別の言い方のほうがいいこともある。「～化」によって、変化の意味を短

く強調できることもあるが、安易な使い方は避けるべきである。

◎取材先との距離を保つ

特典目当ての寄付だけにさせない、ふるさと納税のアフターサービスと言えるのかもしれませんが。道内の他の自治体の参考になるかもしれません。

町の立場に立てば、「特典目当ての寄付だけにさせない」なのかもしれないが、「特典目当ての寄付だけにとどめない」としたほうが客観的になる。

◎あいまいさをなくす

昨年度、上士幌町が、ふるさと納税で得た寄付金は9億8,000万円。人口は最盛期の半分ほど、5,000人の町にあって、税収のおよそ1.5倍にあたる額です。

「にあって」は、意味があいまいだという指摘があった。「にとって」としたほうが、意味がはっきりする。よりていねいに言う時間があれば、「5,000人に減少しているところに税収のおよそ1.5倍にあたる額が入ってきました」とすれば、さらに明確になる。

◎別の意味にとられないか

2つ目は、ふるさと納税に興味を持ちそうな人に、効果的にPRすること。町では、去年、こんなものにも広告を出しました。税理士向けの新聞です。

「こんなものにも」は、「こんなつまらないものにも」と聞こえることもある。「このようなところにも」としたほうがよい。

◎3つ以上の項目の伝え方

では、なぜ、この町が多くの寄付金を集めることができたのか。

1つ目のポイントは、特典のお得感を訴えるだけでなく、納税者の納得感を高めていくことにあります。

2つ目は、ふるさと納税に興味を持ちそうな人に、効果的にPRすること。

さらに、もう1つは、1度寄付した人を、町のファ

ンにまで育てようという取り組みです。

上士幌町が多額の寄付金を集めることができた理由について、3つのポイントを挙げている。最初の「なぜ、この町が多くの寄付金を集めることができたのか」の直後に、「ポイントは3つあります」と予告したほうが頭に入りやすい。3つのポイントの間が空いているためである。特に3つ目については、「もう1つは」と言っているが、これが3つ目の内容だと気づきにくい。「ポイント③」という字幕はあるが、見逃す可能性もあるので、「3つ目は」としたほうがよい。

◎省略した形だという認識を持つ

空襲の記憶を風化させない思いは、今後も続いていきます。

「風化させたくないという思い」あるいは「風化させないという思い」と省略せずに言ったほうがていねいだ。ニュースでは、しばしば「～したいという考え」を省略して「～したい考え」にしたり、「～することの重要性」を「～する重要性」としたりする。放送では、少しでもコンパクトに伝えたいので、こうした省略形はよく使われる。放送表現の1つともいえるが、本来の言い方ではないと考える人もいることを頭の隅に置いておいたほうがよい。後受けの最後のコメントでもあるので、ここはていねいに言いたいところである。

◎重複感のある表現を避ける

特産品でもてなすだけではなく、移住を支援する施策をアピール。再び寄付をするリピーターを増やすだけでなく、移住にまでつなげようと考えているのです。

「再び」と「リピーター」は、重複感のある表現である。「繰り返し寄付をしてくれる人」など別の言い方を考えたほうがよい。

吉沢 信 (よしざわまこと)

第1396回放送用語委員会 (札幌)

【開催日】平成27年10月30日(金)

【出席者】清水義範氏、町田 健氏、
齊藤貴雄 札幌放送局副局長、
長田恭明 放送文化研究所副所長